

(様式1)

校 種	小 ・ ⑤ どちらかに○	学校番 号	1 5	学校名	宇都宮市立城山中学校
-----	-----------------	----------	-----	-----	------------

平成31（2019）年度 学校経営計画

1 教育目標（目指す生徒像含む）

（1）基本目標

人間尊重の教育を基盤とし、心身ともに健康で、自主・自律の精神に富み、豊かな創造力と正しい判断力を身に付け、世界の平和と人類の発展に寄与することができる日本人の育成を目指す。

（2）具体目標

- ・心身ともに健康で勤労を尊ぶ生徒
- ・基礎となる学力を身に付け、自ら学ぶ意欲をもつ生徒
- ・礼儀正しく、責任を重んじ、心情豊かな生徒
- ・主体的で創造性に富み、個性豊かな生徒
- ・文化や伝統を尊重し、国際社会に貢献できる生徒

（3）生徒の信条

「強く 賢く 美しく」

2 学校経営の理念（目指す学校像）

地域と密着した教育活動を展開しながら、互いに学び合い高め合う集団を形成し、すべての生徒が自己有用感を味わえる学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※小中一貫教育・地域学校園に関する方針は文頭に○

- （1） 学習指導要領に則り、学力の定着と向上を図るとともに、基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成、健康的な生活習慣の形成による豊かな心と健やかな体を育む教育を推進する。〈生徒〉
- （2） 互いに高め合い、学び合う協働的な同僚性の育成と、研修への積極的参加による指導力と専門性の向上、並びに組織的対応による職員の負担軽減と業務の効率化を図る。〈教職員〉
- （3） ○義務教育の連続性を重視して小中間の連携強化を図り、地域人材・地域教材を有効に活用して地域貢献活動・地域交流活動等の教育活動を推進する。〈小中一貫教育・地域学校園〉

〔城山地域学校園教育ビジョン〕 ともに学び合う城山っ子を育む地域学校園

4 教育課程編成の方針

関係法令、県学校教育振興ビジョン、市学校教育スタンダードや指導の重点に基づき、生徒が社会の変化に向き合い適切に対応していくため、学校教育を通して育むべき資質・

能力を明確にし、それらを生徒が確実に身に付けることができるよう教科等の関連を図り、バランスの取れた教育課程の編成に努めるとともに、地域の教育資源や外部指導者の活用及び魅力ある学校づくり地域協議会や保護者との連携を図った、地域に根ざした豊かな体験活動を教育課程に位置づける。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※小中一貫教育・地域学校園に関する重点目標は文頭に○

【学校運営】○一人一人のよさを認め、励まし、称賛して更に伸ばす指導の充実と、地域の教育力を生かし、地域とともに歩む学校づくり、並びに業務の効率化

【学習指導】 学習目標の明確化と定着のための振り返りの充実、指導法や授業形態の工夫による学力の向上、主権者教育の推進

【生徒指導】 規範意識の醸成、耐性を育む指導の充実と、認め合い助け合う集団づくりによるいじめ等問題行動の未然防止

【健康（保健安全・食育）・体力】

健康と食の安全確保のための衛生管理、施設点検の充実と、体力向上を目指す工夫を凝らした教育活動

6 学習指導，児童生徒指導，健康（保健安全・食育）・体力に関する取組

※様式2～4参照

7 特色ある学校づくり等に関する取組

（1）育てたい資質・能力

地域の特徴を理解し，課題を作る力

情報を収集，分析，編集し，発表する力

地域貢献を計画し，実行する力

（2）具体的取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」に関する取組には文頭に◇）

◇①地域のよさを知る「ふるさと学習」の推進

・総合的な学習の時間の「ふるさと学習」における，学年別学習テーマの設定

第1学年「城山地区の環境」

第2学年「城山地区の食と農」

第3学年「城山地区の施設と文化財」

・大谷石加工体験など地域の外部講師を活用した教育活動の実施

・学習の成果を共有する場としての「ふるさと学習発表会」の実施

・「ふるさと学習」の学校ホームページ等での紹介

②地域を愛する心や地域に貢献しようとする態度を養う地域交流活動，地域貢献活動の充実

◇・地域の清掃活動や地域の人々との交流活動を行う「城山あったか活動」の実施

・「城山あったか活動」の学校ホームページ等での紹介

- ・「城山地区体育祭」「城山地区文化祭」等，地域行事におけるボランティア活動の奨励
- ・学校支援ボランティアの活用と交流活動
- ・学校の教育活動への理解を深めてもらうための土曜授業や学校公開の実施

③小中一貫教育の推進

◇・小学6年生の中学校訪問の充実

- ・学習発表会（合唱コンクール）への地域学校園内小学校6年生の招待
- ・地域学校園あいさつ運動の推進
- ・地域学校園内小中学校合同での冒険活動教室の充実

④魅力ある学校づくり地域協議会との連携・協力による各種教育活動の企画・推進

8 本市の重点施策・事業との関連

（1）「地域とともにある学校づくり」に関する取組

①基本的考え

「6 特色ある学校づくり等に関する取組」の「（1）育てたい資質・能力」を育成するために，魅力ある学校づくり地域協議会や地域内の各団体・人材を有効かつ積極的に活用し，連携・協力を深める。

②主な取組

「6 特色ある学校づくり等に関する取組」の「（2）具体的取組」参照

（2）「小中一貫教育・地域学校園」に関する取組

①基本的考え

地域学校園として育成したい小中共通の児童・生徒像を明確にして取り組んでいくことが大切である。そこで，部会ごとに，小中共通の重点目標を共有して連携・協力していく。

②主な取組

（1）学力向上部会

- ・地域学校園としての「学習のきまり」や「家庭学習の手引き」の作成・配付と活用
- ・チャイム着席週間の設定
- ・「城山ライブラリーニュース」の発行
- ・地域学校園内授業公開の実施

（2）学校生活適応支援部会

- ・地域学校園あいさつ運動週間の設定 5月，10月（中学生の小学校訪問）
- ・小中児童情報の引き継ぎ 3月（対象：小学6年）
- ・児童生徒情報の共有のための小中学校の連携強化（「生活のきまり」の共有）

（3）健康・体力・食育推進部会

- ・投力・持久力を高める指導の充実
- ・保健指導に関する小中連携の充実
- ・地域学校園内の食材を使った統一料理の実施
- ・「お弁当の日」の統一実施

(4) 交流連携推進部会

- ・小中相互乗り入れ授業の充実
- ・中学校学習発表会（合唱コンクール）への地域学校園内小学6年生の招待
- ・「城山地域学校園小中一貫教育だより」の発行
- ・地域学校園内小中学校合同の冒険活動教室，及び小学6年生の中学校訪問の充実

(3) 不登校対策

①基本的考え

不登校生徒を生まないために、「魅力ある学校づくり」を推進しながら「悩みの早期発見・早期対応及び精神的に強くたくましい生徒の育成」を図るとともに，不登校生徒に対する支援の充実のために「一人一人の実態に応じた効果的な支援」を推進することを基本方針とする。

②主な取組

- ・「学校生活に関するアンケート」（年3回）や教育相談の実施と充実
- ・Q-U 検査結果の分析と指導・支援への有効活用
- ・教育相談体制の充実（担任，学年主任，生徒指導主事，養護教諭，SCM，SC，MS 等の連携強化）

(4) 「宮っ子心の教育」に関する取組

- ・道徳公開授業の実施
- ・外部講師による，障害をもつ人と共に生きることを考える授業の実施
- ・県立盲学校等との交流活動の実施

(5) 「宮・未来キャリア教育」に関する取組

- ・各種ボランティア活動への参加
- ・「県立高等学校職員による中学校訪問説明会」の実施
- ・高校生による「先輩と語る会」や企業人による「おもてなし講座」の実施

(様式2)

校 種	小 ・ ④ どちらかに○	学校番 号	1 5	学校名	宇都宮市立城山中学校
-----	-----------------	----------	-----	-----	------------

平成31（2019）年度 学習指導に関する取組

1 学習指導上の主な実態

(1) 学習内容定着度調査（3年）及びとちぎっ子学習状況調査（2年）から

- ・国語科…2・3年生とも「話すこと・聞くこと」では市の平均と同程度か上回っていたが、「読むこと」では若干下回っている。3年生の「書くこと」では4ポイントと大きく上回っている。
- ・社会科…2年生では市の平均をやや下回っている。3年生ではすべての領域・観点で市の平均を下回っていて、特に「歴史的分野」では7ポイント下回っている。
- ・数学科…2・3年生とも「資料の活用」では市の平均を3～5ポイント上回ったが、その他の領域・観点においては市の平均と同程度であった。3年生では、「数と式」においては市の平均を下回った。
- ・理科…2年生はすべての観点・領域において市の平均を下回っている。3年生ではすべての領域・観点で市の平均をやや上回っているが、「エネルギー」では、市の平均をやや下回っている。
- ・英語科…2・3年生ともにすべての領域・観点で市の平均を下回っているが、特に「書くこと」では8～10ポイント下回っている。

(2) 学習と生活についてのアンケートなどから

- ・「学校の授業がどの程度分かりますか」という問いに対する本校の肯定的回答の割合は、1年生が93.3ポイント(85.6)、2年生が74.4ポイント(81.2)であった(カッコ内は市の割合)。また「自分から進んで取り組んでいる」という項目で肯定的な回答をした生徒の割合は、1年生74.2ポイント(75.5)、2年生70.0ポイント(71.5)で、ともに市の平均を下回った。
- ・家庭学習では、「授業で習ったことをその日のうちに復習している」の肯定割合が1年生では45.7ポイント(53.0)、2年生では40.4ポイント(42.5)である。また、「平日の学習時間」では、1時間未満の生徒が2年生では32.0ポイント(26.6)であるが、1年生では31.4ポイント(22.2)と家庭学習が不足している。

(3) 授業等への取組状況から

- ・学年や教科によって若干の偏りはあるものの、チャイム着席や授業開始・終了時の挨拶など、時間を守り落ち着いた態度で授業に臨んでいる生徒が多い。美術科や保健体育科など、実習や体を使う学習を好み、活発に取り組む様子が見られる。「話し合いに自分から進んで参加している」という項目に対する生徒の肯定的割合は、2年生では76.7ポイント(80.5)、1年生では、75.3ポイント(81.4)とやや苦手としており、「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる」でも、1・2年生とも市の平均を下回っている授業中に進んで話し合ったり、自分の考えについて根拠を述べながら分かりやすく説明

したりできる生徒は多いとは言えない。今後も思考力・判断力・表現力の育成に力を入れて取り組んでいきたい。

2 今年度の重点目標

「学力の基礎・基本」の確実な定着と知識・技能の習得，思考力・判断力・表現力等，学びに向かう力を養う学習指導の充実

3 今年度の取組（文頭に「学校教育スタンダード」に関する取組は★，「平成 31 年度指導の重点」に関する取り組みは□，授業における取組のうち重点は○）

（1）学力の基礎・基本の確実な定着

★□「全国学力・学習状況調査」や「学習内容定着度調査」・「学習と生活についてのアンケート」等の結果から，基礎・基本の定着状況や学習への意識を把握して，課題を明らかにした上で指導の工夫や改善について教科部会等で協議し，年間計画の見直しを行う。

★□漢字や計算力，英単語等の基礎学力を確実に定着させるため，単元末テストや小テストを計画的に継続して行う。

★□定期テスト前の朝や放課後の学習支援を家庭学習と関連付けて，各学年で計画的に実施する。

★□読書活動を充実させるため，「朝の 10 分間読書」の時間を有効に活用する。

・一人一人に応じた指導を行うため，個々の生徒の特質を教職員で共通理解し，TT や習熟度別学習を行ったり，かがやきルーム等とも連携を図ったりして指導していく。

○学習指導を充実させるため，小学校と学習状況についての情報交換や相互授業参観を継続して行う。

（2）思考力・判断力・表現力の育成

★□「校内公開授業週間」を企画し，教職員が思考力・判断力・表現力を高めるための指導方法について，研修や情報交換を行うことにより，指導力の向上を図る。

★□各教科で話し合い活動等を積極的に取り入れ，言語活動の質的向上を目指す。話し合い活動を活発化させることにより，他者と協力しながら協働的に課題を解決できるようにする。

○思考力や表現力を高めるための手立てとして課題設定や発問の仕方を工夫し，ホワイトボードの活用やワークシートを工夫して自分の考えや意見を説明できるようにする。

★□課題解決的な学習展開を工夫し，主体的に学ぼうとする意欲をもたせる。

（3）未来を生き抜く力の育成

○地域学校園で指導している「学習のきまり」との関連をもたせながら，発言の仕方や他の生徒の発表の聞き方・ノートの取り方などについて，授業ガイダンス等において指導を行う。

★□家庭学習について各教科で予習・復習の仕方，テスト勉強の仕方などを指導したり，適切な課題を与えて授業やテスト等で活用させることで，効果的な学習の仕方を身に付けていけるようにする。

○一人一人のよさを認めてほめることで，意欲的に課題に取り組む姿勢を育てる。

・総合的な学習の時間（ふるさと学習・あったか活動・生き方学習）と学級活動等でのキャリア教育との関連付けを図り，主体的に学ぶ力と将来を設計する力を育む。

★○「宿題プラスワン」を地域学校園での合言葉とし，自主的な家庭学習への取組を習慣化させ，基礎・基本の定着を図るとともに，自ら学ぶ意欲を高める。

□3分前チャイムによる着席，授業開始・終了時のあいさつ，授業中の姿勢など授業でのルールやマナーを徹底し，学業指導を通して学びに向かう集団を育成する。

(様式3)

校 種	小 ・ ④ どちらかに○	学校番号	1 5	学校名	宇都宮市立城山中学校
-----	-----------------	------	-----	-----	------------

平成31（2019）年度 児童生徒指導に関する取組

1 児童生徒指導上の主な実態

(1) 問題行動等調査から

- ・陰口やかからかいは多少あるものの、早期対応により解消に至っている。
- ・不登校生徒は各学年数名いるが、該当生徒への対応は、担任が電話連絡したり、定期的に家庭訪問したりしている。また、SCの活用やサポートルーム開設など、学校での柔軟な対応を検討しながら支援にあたっている。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・いじめ防止についての取組では、いじめ防止に関する道徳や特別活動、集会やアンケートの実施を継続して行っており、生徒の肯定的回答が95.5%と高い割合を示していた。
- ・「落ち着いて学習に取り組んでいる」生徒の肯定的回答の割合が74.3%と数値指標を下回っており、授業中の落ち着きに欠ける面がみられる。

(3) 学校生活の状況から

- ・あいさつ運動などの継続的な取組により、元気に挨拶ができる生徒が多い。
- ・決まりやマナーを守る意識の低下が見受けられる。

2 今年度の重点目標

規範意識の醸成、耐性を育む指導の充実と、認め合い助け合う集団づくりによるいじめ等問題行動の未然防止

3 今年度の取組（「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に★、「平成31年度指導の重点に関する取組は文頭に□、不登校対策に関する取組は文頭に○）

(1) 時と場に応じた挨拶やマナーの習得を目指す取組の工夫

- ・挨拶やマナー向上のため、生徒会主催の活動とともに、学級単位のあいさつ運動や小学校と連携（年1回）した、あいさつ運動を継続して行う。
- ・時と場に応じた言葉遣いができるよう日常生活の中での指導を徹底する。
- ・基本的な生活習慣が確実に身に付くように、定期的に身だしなみチェックを行うとともに、学年集会等で全体指導を行う機会を設ける。

(2) □生命や人権を尊重する態度の育成といじめを許さない集団づくり

- ・道徳の時間において、生命や人権を尊重し、いじめをゆるさない態度を育てる授業を行う。
- ・いじめの未然防止のため、「学校生活に関するアンケート」を継続実施するとともに、スマホ・携帯電話等によるトラブル防止のための出前講座やマナーアップ講座などを実施し、社会のルールやマナーについて考えさせる。
- ・学校行事の振り返り川柳の作成・掲示や、授業で制作した作品を掲示したものを鑑賞して称賛するなど、望ましい環境づくりを継続して行う。

- ・生徒主体による「いじめゼロ集会」の実施や「イエローリボン」の配付を通して、思いやりのある心やいじめを許さない態度を育成する。

(3) ★□自己有用感を高める指導の工夫

- ・生徒の自己有用感や自信を育てるため、学校行事において一人一人が活躍できる場面や役割を設定する。さらに、その取組を支援し、達成できた事実に対して承認・称賛する。
- ・「人のために役に立った・貢献している」という喜びや達成感・成就感を味わえるように、生徒の小さな成功体験を学級の時間や学年集会、生徒会活動、表彰などを通して計画的に称賛する機会を設ける。

(4) ★□問題行動のある生徒や集団に適応できない生徒への適切な対応・支援

- 居がいのある学級づくりのため、Q-U検査や年3回の定期教育相談を実施・充実させる。
- 生徒の悩みや不安、問題行動等の早期発見・早期対応のため、各種関係諸機関やスクールカウンセラー、メンタルサポーター等と定期的な情報交換を行うなど、連携を強化していく。また、サポートルームを活用し、学校での柔軟な対応を行う。
- 全職員の共通理解のもとで一貫した校内支援ができるように、定期的な連絡会議をもち、生徒指導の記録を残し、支援の方針等を明示する。

(5) ★□小学校や地域、関係機関と連携した適切な支援

- ・地域学校園内の小中連携を充実させて指導に生かすため、年2回の児童生徒強化連絡会を効果的に企画・運営する。
- ・小学校6年生の中学校訪問の充実、合唱コンクールへの地域学校園内小学校6年生の招待等を通して、いわゆる中一ギャップの解消に努め、学校不適應の未然防止を図る。
- ・よりよい社会の実現に貢献できる生徒を育成するため、「地区体育祭」等の地域行事への参加やボランティア協力を奨励する。

(6) □読書による豊かな心の育成

- ・朝の読書、図書委員会による「お奨め図書」の啓発（ビブリオトークの実施）、ボランティア講師による読み聞かせ等の充実を図る。

(様式4)

校 種	小 ・ ☒ 中 どちらかに○	学校番号	15	学校名	宇都宮市立城山中学校
-----	--	------	----	-----	------------

平成31（2019）年度 健康（体力・保健・食・安全）に関する取組

1 健康（体力・保健・食・安全）に関する主な実態

（1）定期健康診断・元気っ子健康体力チェックから

- ・健康診断の結果から、肥満傾向の生徒が12.1%，痩せ傾向の生徒が2.1%いることがわかった。
（体格は男女とも全国平均と大きくは変わらないが、肥満傾向の生徒が1割程度いる）
- ・歯科治療率は年々増加傾向にあり、今年度は過去5年間でも最も良い値となったが、43.3%と半数以上が未だに受診していない。
- ・裸眼視力1.0未満の生徒は全国平均に比べ低いが、男女とも学年が上がるにつれ増加傾向にある。
- ・元気っ子健康体力チェックの結果の分析から、昨年度課題であった投力については2学年の男子を除いた他の学年については、県の平均値をおよそ1pt 上回っている。しかしながら、2学年の男子においても、その差に有意差はないと判断でき、学校全体として、課題の達成がなされている。また、全身持久力ではすべての学年・性別でおよそ10pt 下回っている。

（2）元気っ子健康体力チェックのアンケート及び国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙

などから（※体力・保健・食・安全について、それぞれ記入する。）

- ・元気っ子健康体力チェックのアンケート項目、「運動、スポーツの実施状況」では、68%が週に3日以上行っていると回答したが、全くしないと回答した割合は5%であった。
- ・マネジメントシステム全体アンケートの質問項目、「生徒は、休み時間や放課後に積極的に運動している」の肯定的回答は、教職員95.8%，生徒87.5%で、昨年度よりも上がっている。
- ・食事について、同じく質問項目「生徒は好き嫌いなく給食は食べている」の肯定的回答は、教職員66.7%，生徒79.2%である。
- ・保健について、同じく質問項目「生徒は、歯磨き・手洗い・ハンカチ所持など、健康に気を配って生活している」の肯定的回答は、教職員83.3%，生徒89.4%であった。

（3）授業や健康安全・体育的行事等への取組状況から

- ・保健体育科授業における実技単元内では、生徒の運動課題に対して補強運動を実施し対策を試みた。投力に対しては、球技の単元において、必ずボールを投げる動作を取り入れるだけでなく、宇都宮市教育委員会より開催されている「うつのみや元気っ子チャレンジ」を自校化（クラス対抗，チーム対抗によるランキング化）し、参加している。結果、昼休みなどに生徒たちが自発的に運動しようとしており、積極的に運動する姿勢につながった。これにより、今年度の新体力テストの結果では、全校で投力の向上が見られたが、全身持久力において、県・全国の平均値と比較すると大きく劣っており、早急の取組対応が必要である。
- ・全校実施での、手洗いチェック週間の取り組みにより、うつのみや学校マネジメント全体アンケート

の質問項目「生徒は、歯磨き・手洗い・ハンカチ所持など、健康に気を配って生活している」の肯定的回答が、教職員・生徒ともに80%を超える結果になっている。手洗いチェッカーとブラックライトによる工夫した取組は、効果的であった。

- ・栄養教諭によるティームティーチングによる授業を保健体育科の保健分野で行った。専門家の授業は、生徒たちの興味関心を高めるだけでなく、わかりやすく、生活に必要な大切な知識が身に付けられる。マネジメント全体アンケートでは、質問項目「好き嫌いをなく食べている」の肯定的回答が、教職員・生徒ともに昨年度よりも結果が向上した。
- ・安全について、校内での交通安全教室を2期にわたり1時間ずつ行った。通学路での危険箇所や注意したいところを写真に収め、スライドで全校生徒に指導した。事後アンケートでは、これまでよりも、登下校への注意力が上がったように感じ取れた。

2 今年度の重点目標

『自己の健康・体力の向上に励む生徒の育成』と『安全に対する意識の向上を図る指導』

3 今年度の取組（「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に★、「平成31年度指導の重点」に関する取組は文頭に□）

（1）望ましい食習慣の育成

- ★□給食指導の徹底（通年）
- ★□食育だよりの発行（毎月）
- ★□給食一口メモ放送（毎日）、給食クイズ（年2回）、リクエスト給食（年2回）、バイキング給食（3年生の2月）の実施
- ★□学校栄養職員とのティームティーチングによる、食に関する指導の実施
- ★□家庭と協力した「お弁当の日」の実施（年2回）
- ★□生徒会給食委員会での残量調べの実施（1月）

（2）健康・体力の向上

- ★□元気っ子健康体力チェックの結果を踏まえ、劣っている種目について授業等で補強運動を実施
- ★□地域学校園で9年間を見通した系統的な体育的指導（課題設定の統一化と小中が連携して分析）
- ★□保健だよりの発行（毎月）
- ★□生徒の実態や発達段階に応じた保健指導を、担任・養護教諭・外部講師などが連携して実施【喫煙防止教室（1年）・薬物等の防止教室（全学年）・歯科講話（1年）・性教育講座（2・3年）】
- ★□生徒会環境整備委員会による校内美化コンクールの実施（12月）
- ★□生徒会保健体育委員会活動を通しての健康情報発信・歯みがき調べの実施・手洗いチェック

（3）家庭・地域との連携協力

- ★□学校保健委員会・学校給食委員会の開催
- ★□消防署、警察署と連携を図った火災・地震・竜巻・不審者侵入を想定した避難訓練の実施
- ★□災害時や不審者に関する情報の家庭や地域への提供
- ★□消防署と連携を図った職員の心肺蘇生法研修の実施
- ★□宇都宮ブリッツェンによる交通安全教室の実施（全学年 7月）

- ★□家庭・地域と連携を図った交通安全指導の充実（交通ルールやマナーの遵守）
- ★□地域学校園小中学校間の情報交換の密化と発達段階に応じた系統的な保健・食育指導の継続
- ★□歯科保健活動の推進（給食後の歯磨き指導の継続及びむし歯治療の推進）
- ★□地域学校園内での食育だより・保健だよりの交換と校内掲示

(様式5)

校 種	小 ・ ① どちらかに○	学校番号	1 5	学校名	宇都宮市立城山中学校
-----	-----------------	------	-----	-----	------------

平成31年度 校内研修（研究）計画及び管理主事・指導主事等の訪問要請計画

1 研究主題

「主体的・対話的な学び」の実現と、学習目標の明確化と定着のための振り返り、授業形態の工夫による学力の向上
--

2 研修（研究）年間計画

月	内 容 及 び 方 法	□○ ◇◎印	要請する教科等 及び時期
4	・教科、領域の研究主題と研究内容及び研修計画の確認 ・教科の年間指導計画に沿った評価計画の確認 ・学習内容定着度調査等からの課題と指導方法の確認 ・総合的な学習（ふるさと学習・城山あったか活動）について（内容・進め方・まとめや発表の方法） ・生徒のアレルギー・エピペンに関する研修会（4/3） ・心肺蘇生法研修会（4/17）		年間を通して、国研教育課程研究指定校（保健体育）、研究協力校（主権者教育）の研究を行う。教科調査官への訪問を今後要請する予定。
5	・各教科評価及びテスト計画との関連性 ・生徒指導校内研修（配慮生徒）（5/15）		
6	・地域学校園小→中乗り入れ授業の実施		
8	・ふるさと学習の実施		
9	・生徒指導，教育相談校内研修（教育相談）（9/4）		
10	・城山あったか活動の実施（10/5 土曜授業 総合扱い）		
11	・校内公開授業月間 ・道徳公開授業（11/16 全市一斉土曜授業）		
12	・地域学校園中→小乗り入れ授業の実施		
1	・次年度の学校課題の検討		
2	・次年度の教科と領域の年間指導計画と評価計画の検討		
3	・次年度の教科，領域経営計画及び研修計画の作成		

※ 管理主事，指導主事等の要請時期については，月日を指定せず「○月中旬」等と記入する。

※ 各種教育の研究として指導主事等を要請する場合は，内容及び方法の欄や教科等の名称の下に，各種教育の名称等を記入する。

※ □○◇◎欄には次のとおり記号を記入する。

□：「授業力向上プロジェクト」としての研究に関する要請訪問

○：学校単独での研究に関する要請訪問

◇：国県市の指定による研究に関する要請訪問

◎：作成要領2の(3)イ(ア) bに該当する要請訪問